



婦人とも

フレール會

第十六卷
第四號

第十六卷第四號目次

新入園児を迎へて

幼稚園保育に就ての希望

「エミール」の幼児教育の花園

幼稚園の卒業式

附添人を離れぬ子供

お話の仕方

雑録

杉浦 恂太郎

福島 政雄

野口 幽香

須子 トミ

紹介 子

本誌定價

一冊 郵税共金拾壹錢 六冊前金郵税共六拾錢
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用 一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ
込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六
番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學
校附屬幼稚園内フレーベル會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々
木山谷一二四倉橋惣三宛

大正五年四月五日印刷納本
大正五年四月五日發行

編輯兼發行者 倉橋 惣三
東京府豊多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

印刷者 守岡 功
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場
東京市本所區番場町四番地

發行所 フレーベル會
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

フレイベル紀念會

本月廿一日(第三金曜日)のフレイベル誕生
日を期し、午後二時半より、東京女子高等師
範學校附屬幼稚園に於て、例年の通りフレ
イベル紀念會を開催致し、講演等有之候間
多數諸君の御來會を願候。

四月

フレイベル會

會 告

歐洲戰亂の影響により、紙價及印刷費の暴騰を來し、諸雜誌一般に二割内外の値上げを餘儀なくせられたるは、既に御承知のことと存候。本會も同一事情に對し種々方法を考策致候結果、不得已會費値上げのことに決定、來月より一ヶ月金拾貳錢に改正致候につき、御諒承希候。尙既に前金御拂込みの方々に對しては改正會費に換算いたすべく、此段豫め御含み置願候。

右會費改正に伴ふ本誌新定價

一冊 郵 稅 共 金 拾 參 錢

六冊前金郵稅共 金 七 拾 貳 錢

十二冊前金郵稅共 金 壹 圓 四 拾 四 錢

(郵券代用一割増)

四 月

フ レ ー ベ ル 會

婦人と子ども

大正五年四月五日
第十六卷 第四號

新入園児を迎へて

一

あなたは如何なる感想を以て新入園児を迎へらるゝや。今年も亦多勢の子供が來たと、一たびねにした新入兒といふものを迎へることも出来る。

そして、それを一室に入れて、一人二人と頭數を數へて、さて皆さん、皆さんは今日から幼稚園へ來られた。先生のいふことを、よくきかなければなりません。お家に居る時の様に我儘を言つてはいけませんと、年々歳々繰りかへされるお定りの年中行事の一つとして、何等別段の感想もなく迎へることも出来る。若し感想が起るとすれば、あの腕白には随分手がかゝりさうだ。一と通り幼稚園の生活になれさせる迄は骨の折れることだと言

つた風の、新入園児即ち厄介者觀を以て迎へることも出来る。

しかし、一人の幼兒を新に幼稚園に迎へるといふことは、幼兒にとつても、幼稚園にとつても、重大な事件である。其の、幼兒の分と幼稚園の分とを身一つに擔ふて、保姆には餘程切實な感想の起る筈のことである。それ／＼の教育的自信があればこそ堪え得らるゝものゝ、敏感なる教育的責任感のみを以てしては、殆んど堪え難ない程の感想に胸を壓せられる筈のことである。

此の教育的責任感に基く感想は、必ずしも新入園児に對してのみでなく、平生如何なる場合と雖も保姆の胸に充つるものである。しかも、慣れる

といふことは感じをやはらげもし、鈍くもする。一方からいへば、それでこそ日々の保育が出来てゆくといふものでもあらうが、しかも、今新しい幼児が、其の新らしい顔と聲とを以て、あなたの許に來たのである。あなたも亦新らしい心を以て迎へざるを得ない。偉大なる教育者は日々にならしき教育的感動を以て兒童に對する。平生は鈍つて居る吾々の教育的感動も、せめて此の新らしい幼兒を迎へる時に當つては胸を衝いて促されて來ざるを得ない。

あなたは果して如何の感動を以て、あなたの前に立てる其の新入園兒を迎へらるゝや。

二

われ／＼の教育的敏感性を鈍らす原因は尠くないが、その中でも主なることの一つは、兒童を一群、一團として見ることに慣れて、其の一人を一人として注意し、洞察し、憂慮することの足りないことである。教育の理論や教育の行政上には、

『生徒』、『兒童』、『幼兒』と言つた様な概念的な對象體をつくる。しかも、教育の實際に於て、現實に我等の取扱ふものは、個別的な一人々々である太郎である。花子である。決して『幼兒なるもの』ではない。家庭に於て親は決して、子供といふものや、子供の群を其の教育の對象としては居ない學校に於ても、幼稚園に於ても、眞の教育は此の現實な個別的な一人々々が對象とせられなければならぬのである。此處に始めて教育が眞に徹底し得る。現實な具象な作用としての切實な効果を一人々々の子供の上に實現し得る。之れは今更いふ迄もない知れ切つた教育上の第一原理であるがしかも我々が教育に狎れて來ると、此の明白なる原理が忘れられる。忘れられない迄も極めておぼろなものになる。對象がぼんやりして居て何處に徹底を期しやうや。そして此の徹底感の微弱がわれ／＼の教育的敏感を鈍らせて來る。もとはと言へば、子供を一人々々として注意し、洞察し、憂

慮しないからである。

といふのは個人教育をせよといふのではない。

相互的教育効果を原則とする幼稚園に於て、個人教育は寧ろ違法である。たゞわれ／＼は二十人を一組とし、三十人を一組として教育するに當つても、われ／＼の注意、洞察、憂慮は明確に區別せられ、獨立せる二十個乃至三十個の注意、洞察、憂慮でなければならぬといふのである。それは一組にあはせて一緒に教育しては居るが、どこ迄も二十なり三十なりの教育をして居るのであるからである。

此一人を一人として見る目は、一度鈍つたら恢復することが六かしい。是非とも始めから嚴密に細心に戒心されなければならぬ。すなはち幼児を始めて自分の手に受取る始めから、深く其の心を以てせられなければならない。之れ新入園児を迎ふるに當つての第一の肝要條件である。また、新入園の際に於て比較的容易に實行し得る條件で

ある。

三

一人を一人として迎へてこそ、其の幼児の心に充分行届いた同情と理解とを與へることが出来る。實際、幼児が始めて幼稚園生活に入る時の心持は可なり複雑なものである。幼児の氣質によつて差違があるにせよ、境遇の變化に伴ふ當然の壓迫を免れ得ないものである。自分を中心として存在するが如き父母の家から、兎に角く世間へ出たのである。其處に幼稚園教育の一つの目的が存して居るにしても、幼児の心持そのものは充分理解してやらなければならぬ。此の理解を有する保母にして、始めて其の子の爲めに母に肖るものとなることが出来る。そして、此處から出發して、終始其の子の爲に正しく幸なる保育を興へることが出来る。われ／＼は幼児の心理を熟知するといふ人で、實は一人々々の幼児を頓と理解して居ない人を見ることが必ずしも稀でない。教育上こんな不幸な

ことではない。そういふ人は學者にはなれても、母に育るものには到底なれない。假りに母といふものに育ることは出来ても、其の子の爲に母に育ることは出来ない。

一人々々の幼児は、その銘々の母の膝下から、あなたの處へ來たのである。そして今日からは、母親とあなたと二つの愛の下に、一日の半分づゝを過すのである。どんな心持で母の膝下から來たかを理解することなしに、何で適切な迎へ方をすることが出来ようぞ。

家庭から幼稚園へ、即ち幼稚園は家庭生活のついでである。ついきといふことは、幼稚園は家庭生活から出發すべきものだといふ意味である。幼稚園を家庭へつなぐのではなくして、家庭へ幼稚園がつがれるのである。木に竹はつがれぬ。其の子の家庭生活を知らずして、其の子の幼稚園をつくることは出来ない。すなはち問題は如何にして凡ての幼児を幼稚園生活といふものゝ公型に入れるべ

きかでなくして、如何にして一人々々の幼児に其の適切な幼稚園生活を提供すべきかである。而して此の問題は、新入園兒を迎ふる時に於て、最も自然に、また最も痛切に考へられる。又之れを考へるに最も適當な機會なのである。

四

幼稚園が家庭へつながれるものであるならば、其のつながりを最も確實にする爲には、幹たる家庭からも終始幼稚園への聯絡を計らなければならぬ。そして兩方が不離の關係に於て、活きた協力の實を擧げなければならぬ。

此のことは家庭の方から見れば、理屈もない自然の要求である。大切な我子を自分の膝下の生活から幼稚園へ送るに、送りつばなしといふことがあらう筈はない。出来ることなら毎日にも幼稚園へ來て見て、我子がどんなことをして居るか、さされて居るかを見度い筈なのである。ところが此の自然然るべきことが實は行はれない。我子が幼稚

園へ入つてから出る迄、始めと終りにたつた二度しか幼稚園へ来たことのないといふ親は少くない甚しいのになると、我子の幼稚園がどんな處か知らないのさへある。こんな有様で協力も何もあつたものではない。たゞ呆るゝの他はないのであるしかし之れも、必ずしも親が我子の教育に不熱心などいふ爲ばかりではない。矢張り毎日のことに慣れて仕舞ひ、鈍つて仕舞ふのである。其の證據には、我子が始めて幼稚園に入るといふ時、乃至其の當坐は可なりの感動を以て、此のことを考へて居るのである。中には、何を着せようか、何を穿かせようか、辨當はどんなのしようかと、こんな類の心配にのみ意を用ゐて、もう少し深い意味の教育的配慮のしようも知らない親もある。しかし、假令、着物のこと、穿きもの、ことにしかあらはれないにしても、其の心は我子の新らしい生活の上に集中して居るのである。殊に平生我子の性癖などに就て、聊かでも憂慮して居る様

とのある場合には、此の新らしい生活に多大の希望を囑して、どの位の熱心を以て幼稚園、殊に保姆に期待して居るか測られない。それが即ち新入園の時の親達の状態である。幼稚園は、親達の此の心を堅く捉へなければならぬ。それを逸せしめ、滅却せしめる様のことのない様に、細心な工夫をしなければならぬ。

幼稚園と家庭との聯絡難は、始終起る問題である。幼稚園が家庭の不熱心を嘆ずる聲も屢々聞く處である。しかし、此の問題の解決は、新入園の時から企てられなければならない。親の教育的熱心が最もよく燃焦して居る此の好機會を逸して、再び強めて之れを燃焦させようとしても中々難い彼の形式的に行はるゝ保護者會に於て、親が今更の様に我子の教育の大切なことを先生なる他人から説き聽かせられなければならないのは、寧ろ滑稽なことである。其の効果の極めて少いのも無理のないことである。

新入園の時に於て、あなたは幼児と共に其の家庭を捉へることを、必ず忘れてはならない。よろしう御座います。お引受致しましたと言つた類な軽い調子で、折角く教育的に可なり緊張して居る親達の心を、うか／＼と弛緩させて仕舞つてはならない。大學の入學には新學生に宣誓をさせる。幼稚園では幼児に入園の宣誓をさせることが出来ない代りに、其の親、少くも母親には、充分嚴重な精神的宣誓をさせるべきである。此の精神的宣誓の實なくして、幼稚園は其の幼児を到底完全に引受けることは出来ない。何も形式的に宣誓式を行つて、判を押させた處で仕様もないが、先づ此の心持を以て新入園を充分確乎たる教育的出發點としなければならぬ。

五

歴史的には幼稚園が何時から創まつて居るにしても、あなたが幼稚園教育に何年従事して居るにしても、幼児の爲には新入園の時から幼稚園が始

まるのである。また其の幼児の爲には、あなたも此時から始めて保母になるのである。考へて見れば大に心を新たにせられざるを得ない。

袖振りあはすも多少の縁といふ。受持ちの先生となり、我が幼児となる。之れが容易な縁であらうか。茲に其の子とあなたとが結ばれたのである。其の子の親とも結ばれたのである。其の子の生涯に重要な關係を持つ教育的出發點があなたの手に托せられたのである。あなたの保母としての意識は、實にこゝに新しい感動を促されるのである。あなたの教育的敏感性は常に潑刺として寸時も鈍ることがあつてはならないが、新入園児を迎ふるといふ此の最好機會に於て、更に一新せられざるを得ない。(倉橋生)

幼稚園保育についての希望

誠之小學校長 杉浦恂太郎

第一に考へていたゞきたい事は幼兒の境遇をよく整理する事です、物のよく整理せられたる境遇の中で幼兒を保育する事です。周圍の事情の感化といふものが、幼兒にどれほどの影響があるかといふ事を考へて見ると、その境遇を作るといふ事にはよほどの注意が必要になります。たとへば部屋装飾とか机とか椅子の如きに至るまで日々よく整頓するといふ事が大切であります。そしてそれが幼兒の保育に對して如何なる意味をもつかと云ふ事もよく考へなければなりません、そして無意味なものは一切おかないといふやうにしたいと思ひます。

第二に幼兒にさせる作業といふやうなものも、幼兒の好んで趣味をもちかつ幼兒に適當したものを撰んでもらひたいと思ひます。砂場の遊びなど

はよほどよいと思ひます、子供の考へ通りに積んだり崩したり遺憾なく自己の意志を發展する事が出来る最適當な遊びであると思ひます。其他なるたけ幼兒自ら力をのべてゆくやうな遊び道具を與へて、しらすく自己を發展させるやうにありたいと思ひます。それから考へて幼兒にえんぴつでちいさな畫などかゝせるのはあまりおもしろくないと思ひます。それよりも壁面にボードでもかけて、柔かいチョークで、子供の意志の通りの畫を自由にかゝせた方が有効な結果を得るであらうと思ひます。

幼稚園が小學校の準備では決してありません。

幼稚園は幼兒の天然の發達を有効にさせる場所なので小學校の直接の準備場所ではありません、それですから直接に準備的の所置をしてゆくといふ

事はおもしろくないと思ひます。幼稚園で、自然と幼児の人物を發展するやうな保育をしさへすれば、自らそれが小學校の準備にもなるわけなのであります。

今一つ注意しなければならぬ事は幼児の個性であります。感情の強い子供をあまり訓戒したり叱つたりするのはよろしくありませんまた秩序正しい動作を無理に要したりする事は自然を破る事になりはせぬかと思ひます、感情の強い子供にはな

るべくこちらから融和するやうに、また叱るなどいふ事は滅多にしないやうにして、その性質の變化を待つがよさうです。各自の個性をよく見て強過ぎるやうなのは次第にやはらげて中性を得しむるやうに自然に導くやうにしたいものです。一方に於ては子供の相互間の關係、一方に於ては個々の特性を適當に指導してゆくといいふ事でありたいもので御坐います。

「エミール」の幼児教育感懐(二)

文。學士 福 島 政 雄

二 女王の務

春の光が暖かに園生を照らす時に萌え出づる草

花の芽を損はじと守るは園守の務である。人の世の春を集めて家庭の園に萌え出づる若草の幼な子

を守りはぐむは母の務である。あゝ母親といふ一言ほど吾々の心に無限の神韻を響きたせる言葉があるであらうか。

「婦人が其の子供に對する務に就いて疑ふことが出来るであらうか。」母親の雙の乳房から滴る甘

露の最初の一しづくこそは母の子に對する第一の務を物語るものではあるまいか。ルーソーは教へて言ふ「損はれたる母親の乳房に滴る雫よりも健康なる乳母の乳を吞ませよ」と。嗚呼その損はれたる母の乳房よ。それには無限の悲しみのこもれることもあらう。量り知られぬ痛みのももれることもあらう。其の痛みを其の悲しみを愛らしの幼な子に傳へじと取かくす柔かき乳房の胸の奥には如何に優しき母の愛が秘められるであらうか。秘められし憂の胸に添ふをかきいだく母の心にこそ女王の務つくし得ぬ堪へがたき思の波は湧き立つであらう。げに母こそはホームの花園の女王である。女王の誇をもて健かに女王の務つくし得る母の樂しみ、あゝ世に何物かこれにたとふるものがあるであらうか。

親しみの泉を母の胸に汲む幼な子の小さき唇はたゞ肉體を養ふ甘露を母から受けるばかりではないのである。幼な子は母親の眞實のはぐゝみを其

の胸より外に得ないであらうか。「乳ばかりならば他の婦人でも或は獸でも母の代りになることが出来やう。さりながら母親の注意深き心に代る心が此の世の中に存するであらうか」とは吾々に與へられたる永遠の疑問ではなからうか。思へば乳母の問題も常に悲しき疑問を吾々に與ふるのである人の子の母に代りて胸の乳房を捧ぐる身も悲しいかな幼な子の身はわれより分たれたる身ならず、幼な子は乳母の乳房に母親の愛の心を汲む前に幾度又幾度悲しき失望を其の小さき胸に繰り返すべき運命とはなるのであるのを木石ならぬ乳母の身は如何に悲しく感ずるであらうか。

併し其の悲しき垣は除かれて幼な子は日毎毎に乳母になつて來ることゝもなるであらう。こゝに乳母がその嬉しき眉を開く時、曇れる日はいつしか母の顔に宿つて自己の運命の悲しさに涙ぐむことはないであらうか。あゝ誰が爲に生み出したる我が子なればわれにはなつかずして乳母の胸

に限りなき愛らしの笑を洩さうとはするのであるか。われにも母としての自然の愛は胸に湧けるものを、此の涸れ果てたる我か胸の泉の怨めしさよと口にくそ出さね、他所の婦人に我が子の愛を奪はたるやうな嫉ましの情が迷へる凡夫として母の胸に湧き立たないであらうか。子供の心から言つても我が母ならぬあだし人の乳房に養はれて幾年の春秋を過したことを成長の後に振りかつて考へる時には乳房に對する暖かい懐しさに伴つてまた一方では我が母の乳房にはぐゝまれぬ不自然の悲しみの情が湧かないであらうか。彼を思ひこれを思へば女王の最初の務のつくされぬホームには永遠に二つの悲歎の波がながれてさらぬだに物思ひ多き人の世の旅になほ一入の愁思を加へるものとなるのである。

或は乳房を賤しき者と思はせて子供が母親に對する愛のきづなをつないで置かうと務める人もある。そして乳房の必要がなくなるや否や情けも暖

か味もなく子供を引き離さうとつとめる。かくして年又年送りむかふる月日のうちに子供心には乳母の顔もさだかに覚えぬやうになるのを待つのである。あゝさりながら子供の心に印象せられたなつかしい面影を斯様に悲しい道によつて薄らげせ母親の嚴しさを以てこれに代へやうとおもふのは何といふまちがつた考であらうか。斯様にして損はれた子供を優しい心の子供にすることがどうして出来やうか子供はこれによつて冷たい背恩の人となるばかりである。子供に甘露の乳を與へその生命をつくり成した乳房を斯様に侮蔑することを教へるのは即ち背恩を教へるのではないか。

ルーンリーの述べる所如何に人生の春の初に於る悲しき事實に觸れて居るであらう。かよい人間の子の胸に優しい心の宿るには母の乳房にはぐゝまれてこそこれを期することが出来るのであるのに、生れて幾日又は幾年、身ははや生みの母を離れて他人の乳に養はれ、子供はこゝに其の親愛の

情を母親と乳母との何れに傾くべきかを分きかねて居ると、悲しい人の心は淺ましくも子供の爲に嫉妬して、假令そは無意識の間に行はるゝことであるにもせよ、母親と乳母と互に子供の心を奪ひあふ。何といふ人生の悲しさであらう。しかもその基く所を尋ねればホームの女王たる母親がその女王なるの誇を以て生みの子供に對する最初の嬉しき務をつくし得ないことにあるのである。

吾人は此に人生の爲に泣くと同時に其の源の惡を匡すめ一路に進まずには居られないではないか。

あゝ女王の務、その最初の小さき務すら既に罪なき幼き子を背恩の岐路に立たしめやうとするではないか。此の如く思ひ去り思ひ來ればいと小さき母の務のその實は如何に大きいものであるかを吾人はしみじみと感せずには居られないのである。

ルーソーは更に進んで述べる。

此の事に關しては更に續けて説いても宜しい。希くは余の説く所を徒らに無用の思想をならべ立

て、眞理の力を失はしめるものと爲さないことを祈るばかりである。此の密接な關係は普通に人が考へて居るよりも遙かに大である。何人も其の最初の最も神聖なる務を思ふ者は直に母の務を思ふに相違ないのである。此の最初の務を怠ることからしてすべての不健全なことは起つて來るものである。すべて人倫の上の秩序もこれよりして亂れて來るのである。かくしてすべての人の心に自然といふことが無くなつて、家庭の内は生命のない空虚な場所となり、子供は家庭の人々をひきつける力がなくなり、他の人々はその家を尊重することもなくなるのである。従つて人は子供に注意し、なくなると共に母親をも顧みないやうになり、家庭の親しい生活は弛んでしまひ、血を以てつながれたきづなも習慣によつて強められることもなく遂に家庭には父もなければ母もなく子供もなければ兄弟姉妹もないといふやうな荒涼たる有様になつてしまふのである。お互に理解し合ふこともな

くなつてしまふ以上はまして互に愛するといふことはなほ更に無くなるのである。各人はたい自分といふことばかりを考へるやうになるのである。

此の如くにして家庭が荒涼たる沙漠となつてしまつたならば人は其の家庭に求めて得ざるものを何處にむかつて求めるやうになるであらうか。

嗚呼かゝる想像は何といふ悲惨なものであらうか。しかしながらこれは單にルーソーの豊かなる空想の産物に過ぎないであらうか。吾人は靜かに今の世を考ふる時に胸中いつしか悲感の交々なるを禁じ得ないのである。あゝ今の世の我が國には如何ばかり家庭の女王の務が等閑に附せられてあるであらうか。父は父らしくもなく母は母らしくもなく、兄弟姉妹の心ははなれくになつて永遠に淋しき道を辿つて居る「家庭の人」が今の世の我が國には如何に多いことであらう。此の如きところには家庭は既に無いのである。誠に母なき家庭に眞の家庭があり得るであらうか。母のいつく

しみのない家庭は永遠に死滅せる死火山の如き家庭ではあるまいか。千秋の氷がこれをとぎして永劫の冬はそれに宿るのではあるまいか。しかもこれはすべて女王の務が無視せられるために起つたことであることをおもへば今の世の母たる人こそは此のルーソーの教語によつて限りなき覺醒を受くべきものではあるまいか。あゝ世の母とよばるゝ人々よ、御身等はホームを外にし家を外にして御身等の刹那の樂虚榮の影を追つて居ても、人に永久の青春なく家庭そのものにこそ永遠の春は宿るべきことを思ひかへしたならば自ら悚然として前途を悲しみ、勇ましく立ちかへつて眞の家庭の建設にいそしむ覺悟は起らぬのであらうか。

ルーソーは此に言を新にして進んで説く。

併しながら母親がその子供を自分で哺育するこゝとが出来るときには此の世の中の道徳は自然によくなつて来るものである。而してすべての人々の胸に自然の感情は湧き出で、來るものである。國家

はこれによつて其の人口を増して繁榮に赴き、此

の結果としてすべては一つになるのである。一つに融和するのである。家庭生活の刺激は道德の頹廢を止むる最上の醫藥である。子供が樂しげに騒ぎまはる事も、心なき人には仕事のさまたげと思はれるであらうが、親心ある人には樂しい琴の調べともきかれやう。子供の聲こそは父親と母親との心を互に此上なきものと思はせて互に相愛せしめる爲の調和の樂の音ではあるまいか。げに子供の聲こそは夫婦のゑにしの糸を愈々密に愈々かくむすびつける絆である。子供一人の心が家族の人々の衷心から生々とした愛情を結びつくれば、家庭内の世話は女にとつては最も好む仕事となり男にとつては樂しい慰みとなるものである。斯様にして一の障碍が除かるればすべての事は都合よくなつて自然はやがてそのすべての力を以て此處に入り込んで來るのである。實に婦人が再び母にかへりさへすれば男子は直に父にかへり夫にかへ

るのである。

あゝ何といふ尊い言の葉であらうか。此の如くなれば婦人は眞の母たる道にかへることによつて一家を化しひいては一郷を化することも出來るではないか。誰か婦人の仕事母の仕事をつまらぬこといふものゝあらうぞ。婦人の心がその幼な子の上に注がるれば社會は善にあらたまり國運の隆盛にむかひ、婦人の心があらぬ方にそゝがるれば世は濁り國は衰へる。婦人の心によつて消長する此の人類の運命を思ふ時誰か滿腔の熱血を婦人の正しき覺醒のために捧げぬ者があらうか。正しき覺醒とは母としての覺醒である。ホームの女王としての務の自覺である。これを思ひ翻つて今日の世の有様を觀すれば如何に歎かはしきことが滿ちて居るであらうか。婦人は違々として外物を追ひ敢へて己れの心に世を化すべき泉の汲むべきあるを求めず、新しき世の學校の教師としての神聖の職を手握つても其の職務の上にそゝぐべき己が

心の温かい情はかへりみずして嫉妬の爲に軋軋し面白からぬ風を校の内外に吹かせて居るではないか。あゝ天下の女教師たる諸姉よ。諸姉は兎にも角にも我が國の子供の精神を導くべき知識と徳とを胸に納めて居る身ではないか。何故にその知識と徳とを温かき生命あらしむる一路には覺醒せずしてたい己れの計にのみ浮身をやつすのであるかあゝ諸姉何故に母たる自覺にかへつて女王たるの務に進み以て天下の婦人を導く儀表とはならないのであるか。思一度此に至つて我が國の婦人の前途に案ずる時余にはたい悲しき涙があるばかりである。ルーソーは當時自己の爲に泣き世の爲めに歎いた。余も亦今の世に自己の爲に泣き世の爲に歎かざるを得ない。あゝ天下の婦人よ、何故に諸姉は清き涙を此の世にそゝいで家庭の園の泉によつて我が社會を洗ひ淨めゆく源とはならぬのであるか。余が熱涙をおさへつゝルーソーの言葉を紹介するのは徒らにこれを祖述せんがためではなくて

今日の世に對する刺激を此に求めむが爲めである。

ルーソーは更に進んで其の至情の教を宣る。

併しながら其の心の清き若き婦人はなほ今の世にも此處かしこに見出される。斯かる婦人はその汚れぬ心の動くまゝに世の人のかしましき流行の沙汰や騒ぎの聲に對しても雄々しくこれに反抗して徳にみつる優しく、自然が婦人に定めたる美しき務をつくすのである。かゝる母の務を忠實にくす婦人こそはその夫から正しき永遠の愛を受けらるものである。その息子や娘から眞に子供らしい優しさを受け得るものである。かくして世の人に認められ尊まれて健康の間に善き子を産み、行く末かけて幸福の道歩み、やがてはその娘達からも世の人の親達からも儀表と仰がれるのである。

母無くして子供は有り得ない。母と子との間には互につくすべき務がある。一方から其の務をつくすことがおろそかであれば他の方からもその務

を等閑にするものである。子供はその母を愛せねばならぬ。まだ子供がその事を知らぬ前に、まだ本務などいふむづかしい姿でそれが子供にせまつて來ない前に子供は自然に母を愛せねばならぬ。しかも母が子供の心を満足せしめ眞實の心から子供を養育して血縁の親しみを強めないならば愛の心は既に子供の幼時に消え去つてしまつて、子供の心情は云はゞまず生れもせぬ前に死んでしまふのである。

母の務が永遠に子供によつて果されることをかくまでも親切に述べたルーソーの言葉の中には實に美しく婦人の務女王のつとめに關する不滅の教が含まれて居るではあるまいか。あゝ不滅の教、これこそはすべての女子の辿るべき道を教へたものではあるまいか。婦人は母たることによつて眞の感化を世に及ぼすことが出来るのである。母となるといふことは單に子を産むといふことではない。單に養育するといふことでもない。美しき心

の泉を子供にそゝぎ、子供を通じてこれを浴ぐ世にそゝぐことである。あゝ今の世の婦人達よ。徒らに世に時めく名を賣る人よりも名も知られぬ片田舎の山里の婦人の優しき心がいかばかり美しき働を此の世には及ぼして居るであらうか。爲すべき務を爲したるを世にはほこる心は未だ至れる心ではない。爲すべきつとめをつくしてしかも「咲きて誇らず散りて恨みざる」心の人こそは眞の道にかなへる人である。あゝ眞の道婦人としての眞の道たる母の務、悠々として自然の間に此の務をつくす人、吾人はこれをよんで理想の婦人といひたい。幼な子の生ひ立ちゆく家庭の花園は此の婦人の爲の神聖の仕事場である。それは名もなき陋巷の片隅にあるかもしれぬ。しかもそれは温かにかゝやく精神の王國であり子供の爲の樂園であつて春の光はこゝに照らし春の雨はこゝにそゝいで子供はその間にいつしか大きくなり、世を動かす力をもその静かなる一日々々の日ぐらしの上に得ら

るのである。その春の光をあたへその春の雨をそ
ぐ人こそは母親である。家庭の王國の女王であ

る。あゝその美しい心の姿よ、吾人はそこに永遠
の幸福と力との宿らむことを祈るばかりである。

幼稚園の卒業式

學習院教授 野口 幽 香

幼稚園の卒業證書は學習院の方では始めの中は
しなかつたのですが、近頃する事に致しました。

さてして見ますと、大變にその結果がよいと云ふ
事がわかつて參りました。幼稚園といふものが子
供の記憶から消えないといふよい結果を見る事が
出来ました。大きくなつてから此の記念の證書を
出して見て幼稚園を思ひ出す、たつた一ひらの紙
ですが、幼稚園と子供の生涯をつなぐ大變に價値
のあるものになるのです。

其後貧民幼稚園の方でも思ひついて、證書をや
る事に致しました。貧民の方ではもつと大切な事
でありました。何年間此の幼稚園で保育を受けた

といふ事が子供の一生に取つて非常な喜びであり
かつ其證書は將來職業を求むる上に於てもよほど
の便宜を得る事になるのです。證書の文句は學
習院の方は別に面白いものでもありませんが、貧
民の方は左の通り認めて居ります。

「右は二葉幼稚園に於て保育を受けたる事を證す
神を信じます／＼善良ならん事を祈る」

幼稚園としてはもちつと子供らしいよい詞がほ
しいのですが、今一寸考へつきませんから、教へ
て下さる人があるまでこのまゝにしておくつもり
です。それから裏に園歌を記して、設立者二人の
名を書きます。

子供が一番おしまいに幼稚園に來ました日に、
學習院では花壇の苗を分配してやります。また前
年の種を採集しておいた種類を分けてやる事もあ
ります。柿の種やら椿、藤、密柑などありあばせ
を分配するのです。そして「今日歸つたら直に蒔
いておきなさい、おなた方が大きくなる時分に
花が咲くから」と云ひきかせますのです。一粒の
種が毎年成長して花が咲き出した時分に、之を眺
めて幾度か反復すれば、記憶がいつまでも新しい
くせらるゝであらうと思つて、御座ります。かつ
將來疲れた時には此花の下でやすめといふつもり
なのです。

貧民幼稚園の方では、卒業式には御馳走をしま

す。赤飯をやりまます。それから動物園へつれて行
く事にして居ります。辨當をこしらへて、電車を
買ひ切つてつれて行きますのです。これは子供の
大變な楽しみになつて居ります。入學の當初から
そんないたづらをする動物園へ行かれないよと
云つて母親がたしなめて居るのをきゝました。そ
んなに印象を深くして居るのですから、其日の事
は生涯忘れないでせうと思つて居ます。

寫眞は撮る事に致して居ります。始めは氣がつ
かずに居りましたが此頃は毎年撮ります。貧民幼
稚園の方には價段を特別にやすく致しまして、平
生からの積金で買はせて居ります。寫眞と證書を
生涯の記念にしようと思ふのであります。

附添人を離れぬ子供

福島幼稚園

須子

トミ

或る幼兒祖母に附添はれて通園すること半歳、

いくら置去らんとしてもきゝ入れませぬ。祖母も

亦置き去るにしのびぬ有様です。一體此子はなかくのきかづもので、友達なども角力などもする位の元氣者なのです。併し附添だけは離れませんが。保母も一人で來園する様にすゝめまされども、明日から一人で來ると申しては、又送られて附添はれます。かくの如く幾日もくりかへしました。處が或時祖母が便所に行きましたのを自分を置いて家に歸りしものと思ひ、保母の目をしのんで家になげかへりました。これで一人で家にかへれるといふことが證明されました。或日祖母さんが保母に向つて申しますに、此子は來四月は小學校へ行かねばなりませんのにこれでは困ります。先生何とか工夫はありますまいかと。そこでこれはよい事を申されたと思ひ、あなたが此お子さんを全く私におあづけ下さつて、私の爲すがまゝにして下さるなら、必ず明日から一人で通園する様にして上げますと申しましたら、何卒先生におまかせいたしますからといふことでしたから、保母は

直に其子を一室につれて參り、あなたは先生を毎日くばかにして居りますね。そんなに先生をだますとよい人になれませんよと怒り顔して申したら、あしたからはきつと一人で來ると申しました。それではおぼあ様に今直ぐにかへつて貰ひませうと、祖母の許に連れて參り、此お子さんはもはや一人で幼稚園に居られます。又明日から一人で來られますからおかへり下さいと申しましたら、祖母さんはそれではと一禮してかへられました。これは兼て打合せて置いたのですところが彼の兒は大聲出しておぼあさんとなき出しましたがそれでもかまはずに又元の一室に抱いて連れ參り、明日からはほんとうに一人で來ることを堅く約束し保母は顔をやわらげてこれから先生と汽車ごしませう、あなたは汽車の驛長さんと此子の最も近き家から通園して居る友達四五人と汽車ごつこを始めました。そして皆さん此驛長さんによくきいておのりなさいといふ風に、大にその子を尊重

して遊ばせました處が、それから大元氣となり、先生又あしたもしませうね、あした私一人で来るなど申しました。此時の保姆の嬉しさ何に譬へん。かくして遂に一人で通園する様になりました。

お話の仕方

(Sheelook: "The Art of Story = Telling" より)

紹介子

一、お話の六ヶ敷さ

私はこれからお話の六ヶ敷い理由を考へて行かうと思ひます。お話は何故六ヶ敷いのでせう、話上手にならうとするには先づこの問題を考へて見る必要があります。この問題をはつきりと解くことさへ出来ればその人は馳がて何ういふ風にお話をしたらいいかといふことを自分から工夫して行くことも出来るのであります。

お話は大變六ヶ敷いものです、と斯う切り出して皆さんを先づ脅がして置ませう、けれども一

且話上手にならうと心掛けた方はこの位のことと辟易して了つてはいけません、六ヶ敷いから用意を忘れてはならないのだと御合點下さらなければいけません。

乃でお話の六ヶ敷い理由を次に並べ立て、みませう。

(一)、お話の傍系へ深入りしてはいけぬこと。

短い演劇のお話、即ち狼が出て来た、少女はそれを知らずに遊んで居るといふやうなお話をする時に、狼が出て来たといふことによつて聞いて居る兒童に或る事件の期待をさせて置いてそのま

、狼の話は續けずに少女は甚麽とを考へてゐたとか花を摘んだとか歌を唱つたとかいつて狼との交渉を何時までも説かず居ると児童はもう靜かに聞いて居りません、斯ういふ演劇的のお話はズン／＼筋を運んで了はないといけないのです、それでないと、その興味は確かに半減されて了ひます或る事件を豫想させるとによつて児童に緊張を強いて置きそれを放り離して他の叙景の話などをゆつくりと話してゐたのでは児童の注意力が疲勞して了ひます。それで児童は一旦モジ／＼し始めたらもう駄目です、面白くないといふ氣分が傳染的にひろまつて了ひますのでお話をする人がいくら聲を厲こまして焦慮しても更にその効かが無くなつて了ふのであります。

叙景や何かのお話をする場合には児童にそれから何うなるのだらうなどとお話の先を急いで知りたがらせるやうな暗示を與へてはいけません。

児童がお話を聞きながら頭の中で川を描き浪を

いどつて行くとが出来るやうにしんみりと落附かせて置いて話さなければいけません、そうすれば児童は緊張を強いられませんからのんびりとした心持でお話を聽いて居られるのです。兎に角短い演劇的のお話をする場合は児童に或る事件を豫想させるやうな暗示を與へて了つてからゆつくり叙景などに入つてお話の傍系を辿つて居るのは失敗を招き易いのであります。

(二)、事情に従つてお話を改作することの危険

お話によつては児童に分らない個所の含まれて居るものがあります、そういふお話は採用しなければいゝといへばそれまでですがこれを用ひやうとする場合には餘程注意しなければなりません、斯る場合には何うしても或る程度の改作を行ふことか必要となつて來るのであります、これは餘程手心を要することでありましてうつつかり改作を行ふと原作とは異つたまるで別のお話として児童に覺え込ませて了ふ恐れがあります、これは歴史や

神話から材料を取つた時殊に注意しなければならぬのでありまして不注意な改作を施したお話をすることによつて兒童に間違つた先入を與へて了ふやうなことがあつてはなりません。

(三) 六ヶ敷い言葉を使はないこと。

お話の中には決して六ヶ敷い言葉を交へてはいけません、本筋に關係のないお話をする場合でもなるたけ平易な言葉を選んで用ゐるやうにしなくてはなりません。兒童に對してお話をする場合故意に生硬な言ひ現し方や耳馴れぬ熟語などを振りまはすやうな非常識を敢てする人は先づあるまいと信じます。がうつかりすると私達は兒童に理解されないやうな言葉を使ふ場合がないとも限りませんから注意を怠つてなりません、普通名詞なども牛や馬や車位のものには説明の要はありませんが水牛となり河馬となり橋となるさういふものに馴らされてゐない兒童には一寸簡単な説明を添へて話す方が安全であります。

(四) 質問しながら話を進め兒童の注意を惹かうとすることの危険。

一つのお話をするために兒童に質問を發しつつ、漸次そのお話の領域へ兒童を誘つて行く方法がありますがこれがこれは上手に行けば至極結構なのですが多くの場合失敗に終り易いのです、といふのは兒童が却々談話者の豫期して居るやうな答をしないのであります、それですからお話の筋は一向運ばないといふやうな結果に陥るので、兒童は深く考へずに思ひ附で答へをするのですからお話の筋とは何の關係もないやうなことばかりを言ふものとみなければなりません、それですから質問をする場合には談話者の豫期する以外の答の出さうもない形にまで切り詰めて質問をしなければなりません。

(五) お話が分つたか何うかを知ることの困難。

これは観察眼が發達して居り又經驗に富んで居れば分ることなのですがそうでないといふ自分の話し

て居ることを兒童は如何に聞いて居るのであらうかといふことが薩張分らないのであります。兒童は特別に面白さうな顔をしてゐなくつても随分熱心になつてお話に入つて居る場合が多いのであります。この呼吸が分らないために初心の談話者は自分のお話が兒童に何の位の程度に於て交渉して居るか分らず大いに話しにくさを經驗するものであります、けれどもこれは注意深い觀察によつて將又經驗の結果によつて兒童が實際如何なる感じを持つて居るかを凡ば推察することが出来るやうになるのであります。

(六)、あまり圖解が多過ぎては反つていけないこと
お話をする時に繪を用ゐることの可否ですがこれは一寸考へ物です、一般に言つて子供の頭腦を混亂させるやうな結果に陥り易いやうに思ひます耳なら耳、眼なら眼と孰方が一方のみに依る方が兒童も注意力を集中させ易い譯であります。この理由からして眼を通して來る説明のために頭腦を

複雑にされることのない盲人は談話をよく理解するものであります。實驗のため兒童に眼を閉ぢさせて置いてお話をしてみれば聲のみが演劇的の興味を十分に起し得るものであることを知るでせう。聲といふものは使ひやうによつてはかなり演劇的の力を持つてゐて想像力に訴ふることの出来るものであります。

次手ですから申上げますが活動寫眞の演劇的價値はかなり大きなものであると私は思ひます。活動寫眞は實際の演劇的及びお話に取つて代ることは出来ませんが表現の可能性に富んで居る點に於て教育的價値を澤山に持つて居ります、けれども目下の如く卑俗な營業一點張りの活動寫眞會社の提供してくれるフィルムには往々にして教育に害のあるやうな者があるのであります。お話に關係して活動寫眞は如何なる點に於て價値を持ち得るかといふにそれは經驗に乏しい兒童に經驗を與へてお話の背景を豊かにして置いてくれるといふ

點にあると思ひます。北極のお話をする場合に兒童がその前に何處かで北極探險のフィルムを見て居るとお話が一段と面白く兒童に聞かれるのであります。けれどもお話を分りよくしやうために繪を用ゐるとはよろしくありません、殊に事實を取扱ふお話でなく直接に兒童の想像力に訴へて行くやうなお話をする場合には繪を用ゐることは絶對によろしくありません、一定の繪をつきつけられれば兒童はお話によつて描く氣分なり、世界なりを制限されて了ひます、けれども繪がなければ兒童は各自自由にその想像力によつて繪を頭の中に拵へてゆくのであります。この方が兒童に取つて興味があり又教育的價值があるのであります。それから兒童は談話者と協力して（つまりお話を聞きながら）自分も一つの繪を描く努力に従事して居ることになります、然るに繪が提出されて居る場合には兒童の爲すべき仕事が生かされて了つたわけとなるのであります。何うですお分り

になりましたらうか。

(七) あまり微細に立入つて要點を失してはいけません。

これは詳しく申上げるまでもなくお分りのことと思ひます、お話の本筋に關係のない事は無論のこと縱も多少關係のあることでもそれが直接の關係でないかぎりはお話の效果にいゝ影響を與へないやうな細かい事實は省略する方がお話を引締める上に於て非常に効があります。

(八) 説明に過ぎてはいけません。

凡庸の談話者が普通よく行ふ所なのですがお話を一から十まで悉く説明しすぎて了つては反つて面白味は薄くなるものであります。お話を話して藝術的な成功を得やうとするならば無論のこと、教育的見地から言つても斯うお話の仕方は有効とは云へません、何故ならばそれでは聽いて居る者の想像力を弱からしめて了ふからであります、一體斯うお話をお話して行ふのは兒童の想像力

を發達させるといふことが重要な目的となつて居るのであります。それですからお話を聞かせる場合には兒童をしてその想像力を自由に働くことが出来るやうにしてやらなければなりません、従つて前に述べたやうに質問の如き機械的方法によつてお話の効果を考查して居るといふやうなことはよろしくないのであります。材料の嚴選と藝術的表現に十分意を盡すならば説明はなりたけ尠い方がいゝのであります。何故ならばその方が兒童がお話を理解するに必要な事柄を各自の思考力によつて補足して行くことが出来るからであります。ケイラーといふ人が「小供の遊び」といふ本の中で次のやうなことを言つて居ります。

兒童は言葉の眞意を捉へることを必要としな
い、否或る程度に於ける精密の欠乏は兒童の想
像力を非常に強く刺戟する、何故ならば精密の
欠乏が想像力にのびやかな自由としつかりした
獨立とを與へることになるからである。

(九)、最後○に○兒童○の○發達○して○居ない○趣味○に○迎合○する○
ため○に○お話○の○標準○を○低○めると○いふ○こと○の中○に○或○
る○特別○な○危險○が○潜○んで○居○る○こと○。

尤もこゝでは教育的見地からのみ申上げて居るから斯ることをいふのでありまして教育といふ側から言ひますと兒童の趣味に迎合しやうとしてお話の標準を無考へに低めるといふことは甚だよろしくないであります。子供の生活に於ても大人の生活に於けると同じやうに弛んだ瞬間あるものでありましてこの時に一寸した軽い趣味のお話が喜ばれるのは申すまでもありませんがこゝにはたゞ學校等で話されるお話に就て申述て居るのであります。

二 お話の要件

話術に於て成功する爲めには演劇的本能と演劇的表現力とが先づ第一の要件であることは言ふまでもないことでありまして若しこれが無いならば

談話者は太したことを爲し得ないのであります。

けれども或る高い理想を持つて居る人々はたゞ是等の要件が備つてゐるだけでは満足出来ないのではありません。尙他の要件をも必要とするのであります。夫等の中で外見の簡索性といふことはかなり重要なことであります、外見の簡索性なぞと半熟な言葉を持ち出しましたがつまり、實際に於ては様々手を盡してあるにも係らず手を盡してあることを悟らせないやうにすることといふやうな意味にお取り下さればいゝのであります、技巧を隠す技巧なのです。

口演の簡單といふこと、發言の不注意といふことを一緒にして了つて「そして」や「それから」ばかりを連發したり「ええー」などといつて言葉を繼いたりするのは甚だよろしくありません。

外見の簡索性は聴き手を聞いてゆかせるために必要なものであります。

談話者の努力があらはに分るやうな話振りは聴

き手に面白い影響を與へません。

ヘンリー、ジエムスがバルサクといふ佛蘭西の小説家に就て講義をした時に、バルザックの作品は彼の思想と飽和して居ないのが欠點であると申したさうですが外見の簡索性が無いといふことはつまりお話の題材が談話者と飽和して居ないわけとなるのであります。談話者がその題材と飽和して居る場合にはお話の仕方が下手であつても聴手を惹き附けるだけの力があります。

この精神こそは著しく談話者に取つても欠くべからざるものであります、一般の談話者がこの精神を感得してお話をするやうになれば確かに話術の上に一つの革命が齎らされるわけであり、従つて教育の方面にも大なる影響を與へることゝなるのであります。

一つのお話を上手に話すためには餘程準備をしなければなりません。

準備のための刻苦といふことは話術の要件であ

ります、お話を準備するには先づそのお話に就て十分考へてみなければなりません、身振りや話の方は後から工夫すればいいのであります。

「兎と龜」のお話を準備するには兎と龜との性格を先づ十分に考へてみて自分が兎の心持にも龜の心持にもなれるやうにならなければなりません、この準備が出来て了ひさへすれば後はもう「兎と龜」とのお話の筋を展開すること、サドイシユ技葉（本筋に左までの關係なき事柄）を挿入して行くこと、細部ヂイに磨きをかけて置くこと等の比較的容易な仕事が残るばかりであります。

学校の先生で話術を研究なさらうとする方は一つのお話を幾度も繰返して十分練習をお重ねになつたならばよろしからうと思ひます。

三 お話の技巧

今までさんざ外見の簡單性などを説いて來て今更急にお話の技巧などといふことを言ふと皆さん

は一寸をかしく感ぜらるゝかも知れませんがこれは別に外見の簡單性と牴觸することではありません。お話の技巧といふのは聴衆の注意を惹き附けこれを維持して行くべき機械的の策略といふ程の意味なのであります。

お話をするといふことは舞臺に立つて一役を演ずるより遙かに六ヶ敷いこととあります。第一にお話をする人はお話全體に互つて出て來るすべての人物を一人で受持つてそれらの關係を常に明かに眺めわたして居なければなりません、第二にお話をする人は舞臺が狭いので身振りや運動を行ふにしても全體の釣合を破らない範圍に於て行はなければなりません。役者はよく舞臺以外に於てもお話をする場合には舞臺上の習慣のために大まかな身振りや動作をして往々失敗を招くのであります。

談話者が是非とも行はねばならぬ特別な訓練は聲調の訓練と言語の選擇とでありますが尙この他

に微妙な暗示力の訓練といふことが必要でありま
す。この微妙な暗示力は舞臺には往々にして應用
せられない場合があります、それですからこの暗
示力は四千五千といふやうな大勢の聴衆を相手と
した時にはお話に於ても効を奏さない場合があります
ます。何故ならば斯る場合には全體の聴衆に聞え
るやうにと思つて無理に大きな聲を出すのであり
ます、而してこれがお話のためには甚だよろしく
ないのであります、大きな聲はお話の微妙な味を
破壊して了ふのであります。

舞臺には登場、退場、脚光、衣裳、相手の役者
の顔面表情等種々の便宜がありますがお話には是
等のものがありません。従つて一人では等の便宜
に相當するだけの努力を爲さなければならぬので
あります。お話に於ては何うしたら俳優の有す
るやうな諸便宜の代用となるやうなことを成し得
るでありませんか、それには聴衆に注意力を起さ
せてこれを終まで保たせてゆくやうな技巧を用ゐ

なければなりません、これからその技巧に就て少
しく述べることにいたしませう。

聴衆の注意を惹く方法として先づ第一に數へら
るべきものは間を置くことであります。斯ういふ
と皆さんは何だそんなことかも仰有るかも知れま
せんがこれが實に侮り難い効能を持つて居るので
あります。先づ「舌切雀」で例を取つてみますと「慾
張りのお婆さんはいろ／＼の寶物が入つて居るに
違ひないと思ひながら葛籠の蓋を開けてみました
すると中から出て來たのは――とこゝで間を置く
のです――一ツ目小僧、ろくろ首、大入道など
といふ怖いお北けでした」といふやうに話すの
です。斯ういふ風に話すと兒童は何が来て來たの
だらうと思つてその全體の注意を葛籠の中のもの
に向けて了ひます、即ち兒童の注意を全體的に捉
へて了ふことが出来るのであります。この技巧は
經驗が積むと漸々巧みになつて來てその効能の著
しいことを認めるに至るのであります。呼吸が六

ケ敷い爲めに始めは一寸旨くゆきません、事實私
がこの間を置くことの効能を認めるに至つたのも
數年間經驗した後のことであつたのであります。

聴衆の注意を惹く他の重要な方法は身振であり
ます、殊に手は非常に役に立つものであります。

手の助けを借りないならばすべての口演は不十
分で且つ力弱いものとなつて了ふのであります、
足や身體全部を以てしてもかなりの程度まで意志
を通ずることが出來ますが就中手が一番効能が多
いのであります、私達は手を以て要求を示すこと
も出來ます、契約を示すことも出來ます。人を招
いたり、追ひやつたり、脅したり、嘆願したりす
ることも出來ます、又好悪を現し、恐怖を現すこ
とも出來ます、更に又歡喜、悲哀、疑ひ、承認、
後悔等を現し、大さ、分量、數、時を現すことも
出來るのであります、又手は鼓舞したり、制止し
たり、哀願したりする力をも持つて居るのであり
ます。舌による言語に各國々によつて違ひますが

手による言語はすべての異つた國々の人々は共通
であります、それですからお話をする時には是非
ともこの身振り殊に手の助けを借りることを忘れ
てはなりません。

それから又幼い兒童にお話をする時割合に効果
のあるのは物真似——犬、猫、鳥等の動物の鳴聲
を巧みに模倣することです、しかしこれは餘程巧
みに行はなければなりません、人によつてはいく
ら練習をしてもまるきり這麼藝當の不得手な人が
ありますからそういふ人は止めた方がいゝのです
勞して效なきばかりでなく反つて兒童に怪奇グロテスクの感
じを起させるので害があるのであります。それか
ら又極く幼い兒童を相手にしてお話をする時には
お話を始める前に兒童の協力を誘致して彼等の注
意力を確かにすることもよろしいと思ひます。大
勢の兒童を相手にお話をする時私は何時も次のや
うな前置きをして彼等の協力を誘致するのであり
ます。

「私は昨夜、大變おもしろい夢を見ました、今
お話を始める前に一つその夢のお話をしてみや
うと思ひます。私は夢に大きな鞆を背負つて○
○町(そのお話をする場所のある町の名を云ふ)
を歩いて居りました。この鞆の中には私が世界
中から集めた面白いお話が一ぱい入れてあるの
です。私は大きな聲を出して「エ、お話、お話
お話の御用はありませんかな、何處ぞに私のお
話をしづかに聞いて下さる方はありませんかな
と云つて歩いて行きました、すると可愛い子供
が大勢集つて来て私を取巻いて「私達にお話を
聞かせて下さい」私達はしづかにお話を聞きま
す」と言ひました、乃で私は鞆の中からお話を
一つ取出して一生懸命になつて話し出しました
「昔丹波の大江山といふところに鬼が澤山棲ん
で居りました……」とこゝまで來ると、私の前
の腰掛に坐つてゐるその可愛坊ちやんによく似
た坊ちやんが私を止めて「ア、そりやア大江山

の酒呑童子のお話だ」と言ひました、乃で私は
何か別のお話をしやうと思つて鞆の中から他の
お話を取出しました、而して今度は「昔々お爺
さんとお婆さんがありました、お爺さんは山
に柴刈りにお婆さんは川へ洗濯に行きました、
或日お婆さんが川で洗濯をしてゐますと川上か
ら桃が一つ流れて來ました」と話し始めると今
度は又その第二列の腰掛に坐つていらつしやる
可愛い嬢ちやんによく似た嬢ちやんが「アラそ
のお話なら誰でも知つて居るわ、それは……」
此處まで來ると私は一寸黙つて間を置くのであ
ります、すると聽いて居る兒童は皆得意になつて
「桃太郎」と叫びます。この前置きを私は二三度試
みてみましたが何時も成功いたしました、兒童は
非常に勇氣づけられ刺戟されるのです、私は乃で
皆さんはいろ／＼なお話を覺えていらしやるので
私は非常にうれしうございます、さて私は今日皆
さんの未だ聞いたことのない何か新しいお話をし

てみたいと思ひます」といつてお話の本題に入つて行くのであります。斯ういふ風になると談話者と兒童との間が頗る親密になつて來ますので兒童は談話者に對して一種の興味を持つやうになるのであります。

それから又聽衆の注意を談話者の方に惹附けるのではなく聽衆の注意をそゝまゝ保たして置くことは非常に六ヶ敷いことでありますがこれはお話を一段々と進めて行くためには必要なことであります。兒童はこれによつて今までのお話の筋を眺め返し次の一段に對して用意をすることが出来るのであります。

それから又聽衆の氣分を見て取るといふことも大切なことであります。聽衆の氣分に從つてお話の展開の仕方を違へて行くことが出來ないと聽衆の注意を收攬して行くことが出來ません。

それから又お話を始めると同時に聽衆を捉へて了ふことが必要であります。中間では多少弛んで

も關ひませんが終りへ行つたら又注意して聽衆をしつかりと捉へて了はなくてはいけません。

次に示すお話の^{ビギニング}始まりの數例は兒童の注意を惹くことに於て滅多に失敗することはありません。昔或處に大きは鬼が居て、洞の中に一人で棲んで居りました」

(スター、ジヨルダン「巨人と藁人形」より)
「或るところに錫で出來た兵隊さんが二十五ありました、この兵隊さんは一つの錫の匙を熔して拵へた兵隊さんですから皆兄弟同志なのであります」

(アンダーセン「錫の兵隊さん」より)
「昔或る所に金の蹄鐵を箠めた馬を持つて居る王様がありました」

(アンダーセン「甲蟲」より)
以上の始まりは足童を直ちにお話の中心に連れ込んで了ひます、それですから兒童の注意を散亂せしめないのであります。

話の始まりに注意すると同じやうに話の終りにも注意する必要があります、兒童の頭へは、つきりと残るのは何うしても終りの部分なのでありますから終りに注意しないと折角それまで運んで來た骨折が半ば徒勞に歸して了ふのであります。

以上の諸點に注意しつゝ實際に當つて功を積んだならば話上手になることは左まで困難な事實ではないと思ひます。

四 避けたき要素

兒童は家庭に於て両親又はお友達からお話を聞き、幼稚園や學校に於て保姆なり先生なりからお話を聞きます、私はこの家庭に於て兒童が個人的に聞くお話と幼稚園や學校の課程として兒童が大勢集つて聞くお話との間に區別を設けたいと思つて居ります。何故そんな區別が必要であるかと申しますと両親やお友達のお話は教育社會のお話とは大分内容に於ても話し振りに於ても異つて居る

からであります、前者の場合には殆んどあらゆる種類の主題を採り用ゐることが出来るのであります、何故ならば両親なりお友達なりはお話を聞くべき兒童の個人的氣質をよく呑み込んで居りますから自由に取捨をしてお話をする事が出来るのであります、けれども後者の場合にはあたりまへの兒童には話したくないお話が澤山あります、特別の事情のために又は生れ附きの氣質のために年齢不相應な發達を遂げて居る兒童に話しても左までの悪影響を與へないお話でも通常の發達を成しつゝある兒童には努めて避けなければならぬお話があるのであります。通常の兒童に話したくないやうなお話ばかりを取出して次に少しく述べることにいたしませう。

(一) 動機や感情の分拆を取扱つたお話。

内省や分拆に忙しい近代に於ては特に斯ういふお話が多くなつて來て居ります。最近十年この方の文學は內的に傾き過ぎて居る位でありますから

斯る時代に於けるお話に對しては特にこの注意が必要となつて來るのであります、この分拆の傾向は兒童には危険なことであります、兒童は經驗に乏しく、心理學を辨へませんからその分拆が完全に出來やう筈がありません、それですから私達は自分の行動の分拆にのみ屈托して居るやうな兒童には努めて斯ういふ傾向を避けさせ、兼ねて斯る傾向を助長するやうな思想を含んだお話を聞かせないやうにしなければなりません。兒童が如何に内省的になつて居るかを示すために私は私の經驗を次にお話いたします。

或時私の知つて居る女兒が就寢する前に床の上
に起き直つたまゝ涙で眼を曇らせながら思ひに沈
んで居りました。私が何うしたのですと訊くとそ
の女兒は、

「あたし今日何か悪いことをしたと思ひますの、
けれどもその悪いことが何ういふことだつたか少
しも思ひ出せません」と答へました、私は慰めな

がら、

「あなたの小さなお手を眼のすぐ前のところへや
つてごらんさい、お手の他には何も見えないで
せう。あなたが今日なさつた事もあまり近くある
ため、そればかりが大きく見えて他のことが見え
ないのです、すこし離して見ればそれがよく見え
るやうになつて來ます、ですから今夜はもうその
事は考へずに又明日の朝考へるとしてお寢みなさ
い」と言ひました。その女兒は幸に私の言ふこと
を聞き入れてそのまゝ眠に就きました、而して明
日の朝になつたらもう昨夜病的に惱んでゐた問題
を忘れ去つて居りました。

(二) 諷刺の利き過ぎて居るお話。

際立つた諷刺といふものは兒童の手に置くべく
あまりによく磨かれた、従つて危険な刃物であり
ます。何故ならば分拆の場合にも申したやうに兒
童は物事の真相を捉へることが出來ません、兒童
は一寸見に可笑しいことをたゞ可笑しいと思ふだ

けで、その可笑しさの原因を知りません、可笑い
ことの底に潜んで居る悲みや慨きを發見すること
が出来るためには經驗と智識を要するものであり
ます、直覺によつてこれを看取することの出来る
のは異常の天賦を受けた兒童か左もなければ大人
に限ります。けれども私は又斯ういふことを附加
へて置かなければなりません、それはあまり兒童
に同情を起させること、即ち悲しいことに對して
あまりに情緒を動かさせることは望ましくないと
いふことであります。私はたゞ兒童が諷刺を用ゐ
て危険な批評的態度を取るに至らないことを望ん
で居るのであります、兒童に斯ういふ態度が出て
來ますと兒童生活の本質であるべき信任や信念の
空氣が著しく破壊せらるゝに至るのであります。

兒童が諷刺に馴らされて了ふと兒童の持つて居
る親切心は薄らぎ同情心は漸次影を潜め所謂ませ
た子供となつて了ふのであります。

アンダーセンの「雪姫」「蝶の話」などは今私

が申して居るお話の例でありまして是等のお話は
兒童には聞かせたくないものであります。

(三)、センチメンタルなお話、

感情に走りすぎるやうなお話もまた兒童に聞か
せるのはよろしくないと思ひます、全然理智の力
を鈍らせて了つて感情によつてのみ動いて行くや
うな生活を兒童に暗示するのは甚だ危険なことで
あります。チエスタートンはセンチメンタリチイ
(sentimentality)と云ふを定義して「非常に廣大な
美しい表現を要すべき事柄を元氣なく、冷たく、小
さく、不十分に言ひ現す仕方」と言つて居ります。

例の通りの皮肉ではありますが半面の眞を語つ
て居るものとして私達の考へさせられるところが
ないではありません。私は若い先生方がその口演
目録の中に加へられて居るお話をこの定義に當儀
めてお考へ合せにならんことを願つて置きます。

(四)、強烈な感覺的の挿話を含むお話。

多くの兒童が感覺的のお話を好みますので特に

この注意は必要となつて参ります、児童は斯るお話を抽象的に好みますがそれを具象化して示されると恐れるのであります。

斯ういふ話があります、或時叔母さんが四歳になる甥のお伽をして居りますとその甥は「熊が子どもを食べちまふお話をして頂戴」とせがみました、叔母さんは困つたこと、思ひましたが甥が自分から望む位であるから別に恐しさを感ずることもあるまいと考へ附いたのでそれならばと恐しい血みどろなお話をして聞かせました、いよく怖い段となつて来たとき其子は手を振りながら「ア、叔母ちゃん、熊にその子を食べさせちやアいけません」と言ひました。

斯る感覺的の趣味は新聞記事や活動寫眞、その他都會生活等によつて養はれたものでありまして児童が一旦斯る趣味に馴らされて了ふともう通常のお話には興味を起さなくなつて了ひます。

ケイト、ドオダラス、ウインジが次のやうな意

味のことを何處かで申して居ります、

「お話は兎も角寫實的でなければいけません、けれども又あまり寫實に過ぎてもいけません。石で小鳥を射ち殺した悪い子どものお話は他の子供に石でもつて本當に小鳥が殺せるか何うかと恐しい實驗を試みさせるやうな原因となるといけませんから採用してはなりません。

(五) 兒童の生活以外の事柄を題材としたお話。

兒童生活には見られない事件、例へば戀愛事件などは神秘の衣を着せられて居ない限りはそのまゝ材料として採り用ゐることはあまり好ましくありません、兒童をして年齢不相應に世の中を知らせ所謂ませるやうなお話は何うも感心出来ないものであります。大概の大人が自分の幼かつた頃の心持を忘れて了つて兒童の實際好むお話を選擇することが出来ないやうになつて居るのは残念なことでありませぬ。

(六) 畏懼若しくは自負に訴へるお話。

現今では兒童の畏懼若しくは自負に訴へるやうなお話は殆んど皆無と云つてもいい位であります。昔はよくこんなお話があつたものであります。昔の兒童はよく斯る種類のお話に満足して居たものだと不審に思はれる位であります。しかし多分是等のお話は兒童の頭に深い印象を止めることなく、現今軽いお話が聞き流しにされて居ると同じやうに兒童に左まで密接な關係を持つてゐたものではありますまい。

一八〇九年頃に發行された「不思議な娘」といふ本から私の今申して居ることの具體的の例を抜萃して見ませう、

「お父うさま、私はお父うさまが私を不満足に思召すやうなことがないことを望みます、何故ならば私は勉強が大好きです、私は終日一生懸命に勉強することが好きで遊ぶことが嫌ひです」

又次のやうな文句もあります、

「まア、お父うさま、私が何時までそんな子供染

みた眞似をすると思召していらつしやるんですか
私はもう十二歳でございます」

斯ういふ考へを持つた人々が兒童にお話をして居たのですからまるで問題になりません。

(七)、誇張した下品な戯れのお話。

一八六九年十二月のマクミランス、マガジーンの中にジョン嬢が次の様などを書いて居ります、
「道化趣味は絶滅しなければなりません、それは不健全な墮落的の暴行を好んで其他のものを排して行かうとする趣味であります、道化趣味は敬虔の念を破り粗野と化して行くのであります、道化趣味は詩的若しくは想像的のすべてのものを排し、ゆかしきもの哀切なもの、存在を否定するものであります、而して他人が熱誠と情熱とを以て眺めて居るものを嘲笑の材料とします、斯くて道化趣味がより高尚な且つ穩健な調子に立戻ることは絶對的に不可能となり了るのであります」

これは半世紀も前に書かれた記事ですが私は今

日に於て特にこの記事の必要を認めるのでござい
ます。

酔きもの又は獸的なものに對して兒童が強い趣
味を持つて居ることは事實であります。さりとして
斯る趣味に迎合するやうなお話を兒童に提供すべ
きか否かに就ては今更論ずるまでもなからうと存
じます。悪いことの智識は全然兒童に與へてはな
らぬと考へるわけではありませんが斯る智識はわ
ざく教へ込まなくつても學校の外に於て兒童が
必要以上に覺え込んで來るのであります。それで
すから學校で何も道化趣味を兒童に吹き込む必要
は更に無いのであります。

(八) 幼き敬神及び臨終の景のお話。

この注意は日本ではあまり必要がないかと思ひ
ますが歐米諸國のお話にはよく子供が死んで天國
を往くお話があるのであります。これは悪くする
と薩摩に厭世的の感じを起させる場合がないとも
限りませんので死んで天國へ行くことばかりを兒

童に願はせるのはよろしくありません、それより
も生きてゐて大學へ通ふやうになることを願はせ
るやうにした方が實際的でもあり効果的でもある
譯であります。兎に角斯ういふお話は餘程手加減を
要するのであります。

(九) お伽話と科學との混合したお話。

こゝでいふお伽話といふのは英語のフエヤリ、
テール (Fairytale) のことであります。夢幻的のお
話を云のであります。お伽話と科學と、この兩者
は兒童の頭では一致させることが出來ない者であり
ます。若し一つのお話の中にこの兩方の要素を含
んで居るやうな場合がありましたならば兩方の要
素はお互ひに相殺して功を爲さなくなりません。

次に掲げるのは英國博物館にある古い印刷物の
中から引き出して來たお話であります。

ジエトン、エスは着物を汚して手をすつかり
疲らして家へ歸つて來まして。「何處へ行つて
ゐたのです」と阿母さんが尋ねました。「水車

小屋の傍の堤から落ちたの、若しかエムさんが儀を見附けて助けてくれなかつたら僕屹度溺れ死ななやつたに違ひないや」とジエーンが答へました。備丁だつて又そんなに堤の際へ行つたのです。「綺麗な花があつて僕それが欲しかつたのですもの、チョイト一足出さうとしたらこつで落ちなやつたのです」

訓言 若き人々は屢々罪深き放縦にたゞ、一步を踏み入るゝのみ（ジエーンは憐れなる哉！）而かも彼等は身を滅すべき罪惡に陥るなり、世に罪深き快樂ありて若き人々はこれを享け樂まんとなす、彼等はたゞ一の罪の行ひによりてそを爲し得べし（花を摘むのいまはしき行ひ！）彼等そを爲さんか、そは又他の罪の行ひに彼等を導く、斯くて彼等は神の助けを得るに非ざれば淪落の淵深く沈まんのみ。

この夢話の馬鹿々々しさは兎も角として、私達は其倫理的根據の蘊藹さに呆れざるを得ません

神といふものをこんな低い標準で考へなければならぬといふのは情無い次第であります。今日ならば先生はジエーンが植物學に對して並々ならぬ興味を持つて居ることを褒めてやります、けれども同時に傾斜地を採集地として選ぶことの危険及び引方の法則を丁寧に説き聞かせるであります。

この例には斯うして訓言が附いて居りますが訓言も何も附いてゐず又お話の中に於ても決して斯ういふことに就て言つてゐないお話があります。私は明らさまにこの教訓を説いて居るやうなお話は結構なお話であるとは思ひません、眞向から教訓を振り翳して行つたのでは兒童は又かといふやうな感じを起しますので反つて實際には利き目がないのであります。

ジエオン、バアロオが「文學的價值」の中で「説教する勿れ」といふ題で次のやうなことを言つて居ります。

教訓小説は決して高い地位を占め得るもので

はない。汝は誨教や教訓をしてはならぬ。汝はたゞ創造し宇宙の如く將又自然の如く目的を有して居る……。藝術の要求する所のものは藝術家の個性的の確信、想念、彼の好惡が少しも現れないといふことであり、善惡が作中に於て事件といふ論理によつて截然と區別せられて居ることである。それは丁度自然に於て爲されつゝあるやうに爲さるべきであつて藝術家の特別な申立によつて爲さるべきものではない、藝術家は善惡いづれにも與しては居ない、藝術家は獨創的エネルギーの仕事为例證する……。偉大なる藝術家は倫理觀念に於て製作し、倫理觀念を通じて製作し、倫理觀念から製作する。その作品は直ちに生活の批判である。藝術家は倫理を持たざる道徳家である。倫理が現れかけて來たならばその時こそ彼は藝術家としての聲譽を墜し始める時である……。藝術の大なる特徴は生活をしつかりと見やうとし、生活を全體として見

やうとする點にある……。藝術は世界が調和的に且つ完全に見えるやうな見地を提供する。

フレーベルはお話の教育的價值を述べてお話の最高の用は兒童をして暗示によつて人は如何なるものにして、如何なることを爲すべきものであるかに就て純なる且つ高尚なる觀念を形造るやうにさせることが出来る點にあるといふことを申しました。

(十) 最後○に○避○け○た○い○と○思○ふ○こ○と○は○兒○童○が○實○際○自○分の活動に移して行かうとした場合

これを行ふことの出来ないやうな情緒を起させるお話であります、斯るお話は兒童をしてイライラした心持を起さしめ、延いて他の有益な活動を行ふ力を徒費せしめるのであります。斯くヒステリックな影響を兒童に與へるやうなお話は當然避くべきであります。

雜 錄

ブロー女史逝く

去月二十八日紐育發東京朝日新聞特派員の電報は亞米利加幼稚園界の書宿スーザン、發ブロー女史の死去を報じて居ります。女史は實に純正フレーベル主義宣傳者の雄でありまして、吾人亦其の多數の著書によつて學ぶ處尠くなかつたのであります。斯界の爲痛惜にたえません。

○フレーベル紀念會

本月二十一日はフレーベルの誕生日に當ります。例年の通り此の日を紀念する爲に、午後二時半から東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て、紀念會を開きます。フレーベルに關する講演もある筈ですから、諸君の御來會を希望いたします。

○本會々費改正

本號廣告欄に掲載の通り、來五月より本會々費を改正いたしました。歐洲戰亂の結果洋紙及印刷費が法外の騰貴で、從來通りの會費を以てしては、本誌發行にたえないのであります。本會の主旨としては、會費低減をこそ希望して居るのであります。此の際實に止むを得ざる次第であります。特に御諒承を乞はざるを得ま

せん。

○私立玉成保母養成所

米國に於て幼稚園教育の研究を遂げ、過般に特に伊太利に遊びてモンテッソーリ教育法を研究し、歸來自ら幼稚園を開始して、斯界の爲に熱心力を盡さんとして居られたソファヤ・アラベラ・アルウケン女史は、今回更に私立玉成保母養成所を設立（四月十日開始）し、優良なる保母の養成に従事せらるゝ由。其の學則の拔萃は左の通りであります。尙ほ高等女學校の卒業者又は尋常小學校の准教員の資格ある者にして、同養成所を卒業せるものは、東京府より無試験檢定にて保母の免許狀を下附せらるゝ由であります。

○私立玉成保母養成所學則（拔萃）

- 第一條 本所は幼稚園保母を養成するを目的とす。
- 第二條 生徒の定員は十五名とす。
- 第三條 修業年限は一ヶ年とす。
- 第四條 學期は左の如く定む。
 - 第一學期 四月十日より七月十日まで。
 - 第二學期 九月十五日より十二月廿二日まで。
 - 第三學期 一月八日より三月廿五日まで。
- 第六條 學科、課程及每週教授時數は左の如し。

學科	每週教
修身	一 母と子遊戲

教育の大要、近世教育史

心理 一 心理一般

保育法 四 フレーベル恩物、會集、プロゲラム

動物學 一 普通卑近の動物の形態、習性及人生との關係

植物學 一 普通卑近の植物の形態、習性及人生との關係並に園藝

幾何 一 幾何學初歩

話 一 幼稚園談話研究(隔週)

圖畫 一 簡易なる圖畫及黑板畫練習

手工 二 紙細工、豆細工、粘土細工、其他幼稚園に於ける各種の細工

音樂 二 樂典、基本練習、歌曲、樂器、教授法

遊戲 一 幼稚園遊戲の理論及實習(隔週)

生花 一

合計 一八

第七條 授業は午後二時に始まり同五時に終る。

但實地練習の時間は別に之を定む。

第十六條 本所に入學を許可せられたる者は入學料として金壹圓を納附すへし。

第十七條 授業料は一ヶ月金貳圓とす。

私立玉成保姆養成所

所長 ソファヤ、アラベラ、アルウキン

養成者 (イロハ順)

東京府知事 法學博士 井上友一

文部大臣 法學博士 高田早苗

東京市立麹町尋常小學校長 土川五郎

文部省普通學務局長 田所美治

東京女子高等師範學校長 中川謙二郎

文學士 倉橋惣三

男爵 牧野伸顯

東京女子高等師範學校教授 横山榮次

東京女子高等師範學校幼稚園主事 安井哲子

○入學志望者は左記の處に問合はせありたし。

東京市麹町區上二番町三十六番地(電話番丁一八一番)

ソファヤ、アラベラ、アルウキン

○フレーベル追懷錄に就て

昨年一月より久しく本誌に譯載して居りましたピユウロウカ夫人著「フレーベル追懷錄」は、初め申上げました通り、フレーベル研究の最も重要な資料でありまして、全部掲載の積りで居りましたが、譯者の都合により、前號にて中止のことと致しました此段御諒承を願ひます。

幹主子とも仁羽

子供之友

本誌は十分教育的に編輯された子供雑誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尙にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるる御家庭におすゝめ致します。

定額 一冊 十一年 分半 郵税 十銭
婦人友人社 東 京 雜 司 谷
代 替 一 〇 〇 六 番

顧問 高島平三郎先生

モドコ

日 本 一 本 の 繪 雜 誌

本誌の特色

- 最もまじめなこと
- 最も教育的なこと
- 最も平易なこと
- 繪の美しいこと
- 記事の面白いこと

本誌は最も着實にして教育的幾多畫雜誌中独自の地歩を占む。記事は全部片假名にて極めて平易。八九歳以下の子供の絶好伴侶なり。

發行所 東京市小石川區林町五十七

モドコ
 電話 振替
 番 番
 八三 六 九 七 六二
 番 番
 八三 六

定價一冊拾錢
 郵 稅 五 厘
 □六冊郵稅共
 五 拾 八 錢
 □十二冊郵稅
 共 壹 圓 拾 錢
 □總て前金の
 事

の一本日 年幼本日

□倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雑誌です。

本誌は、玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となります。

定價

壹冊拾錢 □半年 郵税共六拾參錢
郵税壹錢 □壹年同 壹圓貳拾錢

婦人畫報
少女畫報
日本幼年

發行所

東京橋鍛冶橋外
振替東京四九〇〇

東京社

會長

醫學博士 片山 國嘉

規則

『兒童研究』は兒童の身體と精神との學術的研究に關する事項を集録せる我國唯一の雜誌なり。兒童身體の解剖、生理並に心理より始めて其養護、教育、法律等に涉り教育病理學、特殊教育學等あらゆる範圍にありて兒童問題の研究に資すべきものは皆網羅せざるはなし教育家、醫家、心理學者は言ふまでもなく兒童の保護者ならびに兒童生活に興味を有する人々の爲に好伴侶たるべし。

主幹 高島平三郎
醫學博士 富士川 游

概要

●本會は兒童の精神及び身體の狀態を科學的に研究するを以て目的とす
●毎年春秋二期に本會の總集會を開き演說談話討論等を行ふ
●雜誌は毎月之を發行し會員には無料にて配布す

兒童研究第十九卷第八號目次

評論

「可き」と「ある」
上中下の教育機關の一致協力
誤れる兒童教育
新愛國心の養成
開發的教育

講演

一産多兒の話
自由主義と家庭教育

演

兒童の養護
第一印象
子供冬の衛生
最も良と思ふ乳瓶と乳首
獨逸兒童文學史

叢談

兒童學叢報
兒童智力檢査成績
生徒精神能力の研究報告
結婚年齢と小兒數
小學校兒童の腰掛及び方法
雜誌文籍
外に雜誌數十件

醫學博士文學博士
醫學博士
醫學博士
醫學博士
醫學博士
醫學博士
醫學博士
醫學博士

村尾 清節丸
河野 清丸
富士川 平三郎
高島 游
唐澤 秀光
藤田 啓一
三田 啓
ドクトル
渡邊 耕治
楠保三郎
グリンチンケ
高橋 隆三

●入會せんとする者は姓名族籍職業及現住所を詳記して事務所に申込むべし
●本會員は會費として毎年金一圓八十錢を前納すべし。但し集金の便ある地は毎月金十五錢を納むることを得
●會員は各自の研究上並に兒童教育上に關して本會に協議することを得

日本兒童學會事務所

(五九三二京東座口替振)地番十町片西郷本京東

雜誌 第一部 共十六錢

雜誌見本 希望者は 郵券拾錢を 送らるべし

フレーベル會規則 (抄)

- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
 - 第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク
 - 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノトス
 - 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ齎出スベシ
 - 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
 - 第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品、幼兒成績物展覽、會務ノ報告等ヲナス
 - 一、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、協議、實驗等ヲナス
 - 尙毎年四月廿一日特ニフレーベル紀念ノ爲メ會ヲ開ク
 - 一、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス
- 但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス
- 一、雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス
 - 一、前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

會 長

中川謙二郎

會 告

○本會事務所先般より東京女子高等師範學校附屬幼稚園内へ移轉致候處尙御承知漏も有之候様につき重ねて申上候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願候

○萬一本誌不着等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

○會費御未納は會計整理上甚だ困却致候に付確實に御納付下され度尙後萬一御不納久しきに亘り候場合ハ乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置き願候

フレーベル會

土方伯題字、中島、松本士兩博、乙竹、佐々木、下田三教授、元陸軍通譯「富」と發展、著者平瀨龍吉著

兒童問題之將來

四六版六百餘頁洋裝美本
價壹圓三十錢送料十二錢
東京小石川大原町一四
發行所 幸運社
振替東京三番町
東京 三番町
東 三番町
發賣 フレーベル館
振替東京一九六四〇番

女學雜誌「女王」評に曰く、本書は兒童問題の將來に就いて著者平瀨氏の獨特なる觀察議論であつて家庭問題國民道徳問題に對し著者の平常抱懐する精神を平易なる新體詩風に書きくつして誰れにでも讀み易く解り易く説明したものである東西の偉人英雄富豪などが風雲に乗じて成功したる事例を巧みに織り込んで興味の中心に其精神を會得せしめやうとした處に本書の特色がある兒童問題の研究漸盛ならんとする今日之を世に薦むに北海瀨川發電所長田村久吉氏書簡に曰く、貴著「兒童問題之將來」誠に面白く拜讀仕候尙當地の小學校長に見せ申候處各先生達授業時間外競ふて拜見致し何れも貴著の豊富なる内容活氣充滿せる文辭と驚喜感奮致候著に有之私如きもの一節に曰く面白く拜見致し何れも貴著の豊富なる内容活氣充滿せる文辭と驚喜感奮致候甲賀ふじ女子書簡の一節に曰く面白く拜見致し何れも貴著の豊富なる内容活氣充滿せる文辭と驚喜感奮致候莊田平五郎氏書簡の一節に曰く面白く拜見致し何れも貴著の豊富なる内容活氣充滿せる文辭と驚喜感奮致候大に考へねばならぬ緊要の問題に有之貴著の如き有益なる出版物の廣く一般に普及せんことを希望致し候大阪浪華教會牧師杉田潮氏書簡に曰く、大兄多年御苦心の高著誠に愉快に通讀致し候尙孰讀致し候て日照學校教師參考書として差出し度存じ候益社會に愛讀せられて世の益とならん事を祈る處に御座候泉州瀨寺公園橋本奇策氏書簡の一節に曰く、該書は大兄の御熱心なる御教訓と御戒辭を明解に申可相樂み居候易く御詳述相成候ものにして吾等に取りて無此上寶庫と存候右は弊店員にも謀請致させ可申然も判請致し神戸山手六丁目松山高吉氏曰く、誠に有益なる御書物にて家族一同拜見致し候申可相樂み居候衆議院議員古谷久綱氏禮狀に曰く、君の此の快著や所謂科學的無味乾燥的の論題を執へ來つて趣味津津詩に非ず小説に非ず且議論にも非ず、然も一種の氣概は全卷を澎湃して天下幾百萬の青年をして高邁雄大の精神に化せしめ懦夫をして起たしむる底の意氣橫溢せるを見るに至つては到底他に其比を見る能はざるを信す云々

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回五日發行)
大正五年四月五日發行
大正五年四月五日納本濟
印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場
婦人と子ども 第十六卷第四號